

## たかす開拓記念館主催講演会

### 「たかす開拓記念館 開館までの歩み」

講師：中野和美 氏（株式会社中央工芸）文化事業部 顧問

11月9日（土）13時30分から開拓記念館の設計に携われた仲野氏の講演が行われた。

事前に町内各家庭には開催チラシを配布し、振興事務所の職員と町内の小中学校の先生方に案内を申し上げたが出席者は皆無、文化財保護協会の会員11名の出席者だけで、講師に申し訳ない講演会となった。

講演内容についてはスライドによるプレゼンテーション形式で行われたため、資料がないので、筆者の記憶にある中のことを記す。



#### 1 文化事業部とは

株式会社中央工芸の文化事業部の中野和美です。株式会社中央工芸とは、スペースディスプレイ、総合レジャーランド等の展示および設備建設、各種博物館・科学館の学芸展示、商業施設の企画・施工、コーポレートサインの総合企画など、幅広い分野での業績を高く評価されております。主な仕事先は郡上八幡町並み館、瓢ヶ岳PAの改装、NHKドラマの大道具等の作成を手がけています。



#### 2 郡上との出会い

私が最初に郡上を訪れたのは、明宝の博物館である。

#### 3 始めて高鷲村を知る

高鷲には北海道開拓、満州開拓、蛭ヶ野開拓など多くの開拓についての歴史がある。これらの資料を保存・保管・展示するために高鷲文化財保護協会としては、長年行政当局へ民俗資料の収蔵庫または資料館の建設をお願いしてきたが、この度、郡上市から予算が付き、高鷲財産区からの寄付金をいただいたことによって、資料館を町民センター内に設置するという設計予算が付いた。また、文化財保護協会に郡上市教育委員会文化財担当者から高鷲町が収集した民俗資料収集目録作成の依頼を受け、会員の協力によって旧鷲見分校に保管してあります民俗資料の一覧目録を作成、写真取りを行った。そして旧鷲見分校にある民俗資料の洗浄とその移動を会員の皆様方にお願ひし、保護協会に会員数名の協力で洗浄と整理ができた。

そして北海道の下川町で聞き取り調査を行い、また市内で満州開拓者から聞き取り調査を行った。



#### 4 2014年分校の手伝い

文化財保護協会員が箒を持参して旧鷲見分校へ集まった。その時にグラウンドから見た校舎は、窓ガラスは所々破れ、屋根の樋は壊れ、グラウンドは雑草に覆われて校舎は危険な状態であることが読みとれた。この校

舎の中には、旧高鷲村時代に村民から寄付をしていただいた衣食住に関する民俗資料が保管されている。今日は、この校舎に収蔵されている民俗資料を少しでも綺麗に、また資料を理解する目的で企画された。民俗資料収蔵庫を清掃する会員 掃除終了後、本協会顧問の故山田幸男氏から収蔵資料を集めるときの苦労話と収蔵品の解説講義を受けた。また、民俗資料がどのようなかたちで市民に展示・公開をするかを参考にするために、高鷲振興事務所のご協力を得て、郡上市内の民俗資料館視察に和良歴史民俗資料館と白山文化博物館を見学した。

また、展示文章には郡上市から色々な要望があり、その都度大和振興事務所に集まり文章の校正や満州開拓事項の検討を行い、文章等の修正を行った。

## 5 満州開拓の調査開始

旧高鷲村は戦前、旧満州の琿春高鷲開拓団に約 640 人の移民を送り出したが、終戦直前の 1945 年 8 月 9 日のソ連軍が侵攻。開拓団員は悲惨な逃避行を強いられ、飢えや病気で約 200 人を超える犠牲者を出した。

たかす開拓記念館には開拓にまつわる資料約 1400 点が並び、豪雪地帯で農地が乏しい高鷲村は、国の政策に基づいて満州への分村計画を決定。先遣隊派遣の後、本隊が 41 人が琿春高鷲開拓団に入った。琿春は豊かな農地が広がり、稲や大豆、ジャガイモなどがよく育った。しかし、ソ連軍の突然な侵攻で状況は一変。開拓団員は多くの犠牲者を出しながら非難し、収容所でも飢えと感染症で倒れる人が相次いだと、現在生き残っている満州開拓者は話している。さらに満州開拓死亡者の銘板を作成の要望があり、会員の山川氏から材料の寄贈を受けて、開拓物故者の冥福を祈った。

## 6 展示計画を始める

高鷲町文化財保護協会では、高鷲の民俗資料を昭和 58 年から平成 11 年にかけて収集し、平成 3 年頃から開拓記念館建設の要望をしてきましたが、ようやくこのたび、開拓記念館開館が実現した。高鷲町文化財保護協会では、高鷲の民俗資料を昭和 58 年から平成 11 年にかけて収集し、平成 3 年頃から開拓記念館（仮称）建設の要望をしてきたが、ようやく開拓記念館開館が実現した。

高鷲町は、明治以来、大半が開墾・開拓の歴史です。また、市内・岐阜県下・全国においても「開拓」というテーマをもつ民俗資料館は稀であり、全国で三館しかない。

高鷲町の「開拓」は、貧困からの脱出、地域内の人員調整（人べらし）、国策からの集団移住、戦時下での大規模開墾（食糧増産）、戦後の新農村建設政策としての開拓、そして「三白産業」として酪農・高冷地野菜農業（大根）・リゾート開発（スキー）などでした。特に三白産業は、高鷲の子供達が誇りに思う産業であり、地域を代表する産業となった。こうした苦難の連続の結果、花開いた開拓の歴史は、農業という範疇・生きるための大地への対峙としてだけで捉えることのできない村人たちの生き方・生きざまとしてみる事ができる。“切り拓く力”が脈々として受け継がれているといってもよい郡上の魂であると思います。この郡上魂を「たかす開拓記念館」で集約されている。



## 7 私からの提案

現在、開拓の経験者が高齢化して次々この世を去っていくこの時に、多くの証言を集め後世に伝え遺していくことが文化財保護協会の責務だと思う。また、未来を担う青少年の学習の場となり、高齢者の認知症に対する回想法という治療の場となれば幸い

である。その具体例として、町内の学校に開拓資料のパネルを展示したり、他市町村の博物館での移動展示すると良い。

文化財保護協会では写真のような移動展示を行った。また中野氏は小中学校に右下の漫画を寄贈すると開拓記念館の宣伝にもなると結ばれた



岐阜県博物館での移動展示



東京平和祈念展示資料館発行漫画